

イベントでお話いただいた 酒井さんのキャリアストーリー



まず、会社勤めをしていた時のキャリアについてお話しします。大学では法学部で学びました。1970年の大阪万博が原体験となって「多くの人に喜びをもたらす仕事がしたい」と思うようになり、広告代理店に入社。キャリアの最初はクリエイティブ部門でコピーライターをやっていました。その後、長く営業部門で某自動車会社を担当。マーケティング部門を経て、2004年からシンガポールに駐在しましたが、ここが仕事観が変わる、ひとつのキャリアの転機となりました。

日本では会社の離職率は数パーセントでしたが、アジアのメディア/広告業界の転職率は30%。シンガポールではさらに激しくて40%。3年に1回全社員が入れ替わることになります。「人は辞めるんだ」という事実を目の当たりにすると共に、もしかしたら近い将来、日本もこのような状況になっていくかもしれない、という感覚を持ちました。

日本に帰任して間もなく、社が大きな海外買収を行い本格的にグローバル化に踏み出しました。同時に、職務型（ジョブ型）給与の導入、役職定年年齢の引き下げなど大きく制度が改編されました。私自身は親の介護をしていたこともあり、これからのキャリアをどのように作っていったら良いのかを真剣に考え始めました。

実は初めて、この時「キャリア」というものを意識しました。そのような時に、キャリアカウンセラーという資格があることを知って試験を受けることにしました。仕事と介護と試験勉強を同時にこなさなければいけなかった当時は、いま思い出しても本当に大変な時期でした。でも、大変な時を必死にやり抜いたからこそ今がある、と今は思っています。

さまざまな「越境体験」が私という人間のキャリアを形成して来たと思います。と言うとカッコよく聞こえますが、正直「今後どうしていったらいいだろう・・・」ともがいてきた軌跡ですね。海外駐在という文字通りの越境経験から始まり、グローバル化の中で、キャリアカウンセラーということ学ぼうと思ったり、学んだことをアウトプットするためのワークショップを学ぼうとしたり、NPOに参画したり、村松さんとも一緒に汐留地区での企業コンソーシアムを作ったりといったことをして来ました。

そういった経験を経て、2019年の3月31日に定年退職し、4月1日に会社を設立しました。社の理念は「創造的な人生を、すべての人」としました。起業と同時に、美大の大学院に入学して「創造性（クリエイティビティ）と働き方やキャリアを繋げる」研究も行って来ました。現在は、日本に広がりつつあるアルムナイ（OBOG ネットワーク）をテーマとする研究所を主宰したり、多くの企業人事の皆さんと「10年後のHRをつくる」企業間越境大学という取り組みを行ったりしています。

キャリアカウンセラーとしての活動は、村松さんのようなメインストリームと違って私はどちらかといえばアングラ（アンダーグラウンド）ですね（笑）。実は、今年の春から体調の変化がありまして。どうも自律神経がいかれているようなんです。何かあると研究したくなる性分で、いろんな本を読むと、どうも自律神経を改善する上で「ゆっくり」がキーワードになっていることを知りました。

若宮さんのお話は2年前のインタビューにも立ち合わせていただいたのですが、当時と今日では聞こえ方が違いました。中でも一番刺さったのが「慌てなくていい」という言葉でした。私はとにかくせっかちでスピード重視なんです。これまで突っ走って来たツケが今、ちょっと体に響いているところがあるのかなと感じています。なので、現在のキーワードは「ゆっくり」ということになります。「ゆっくり」ということの意味を考えながら、改めてこれからのキャリアをゆっくり作っていかようと思っているところです。